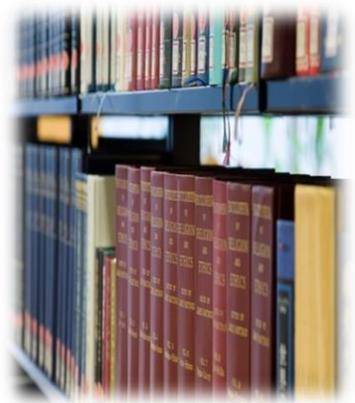




図書館だより



4月に入学された方々も半年がすぎ、大学にも慣れ、図書館にも足を運んでいただけましたことと思います。ご意見箱を設置して4ヶ月が経過しました。皆さまからのご意見を取り入れ、改善したことなどもフィードバックしていきたいと考えています。皆さんに、有意義に活用していただきたいという願いをこめ、秋号を発行しました！



トピックス



■ 貸出冊数の増加！

学部生は10冊（旧7冊）、大学院生20冊（旧12冊）に増加されました！
皆さんの学習や論文執筆などのお役にたちますように。

■ 講習会のご案内！

- ☞ 後期授業開始に伴い、今春実施して好評だった文献管理ソフト「レフワークス」の講習会を実施いたします。
- ☞ 今回は、現在トライアル中の [SFX リンクリゾルバ](#) の利用法についても約20分、説明を行う予定です。

◎日時：平成28年10月20日（木）18：00～20：00 第1情報処理室
ぜひご参加ください。

■ 相互利用提携大学が増えました！！（学生用、教職員証をお忘れなく！）

10月から相互利用提携大学に「帝京短期大学」が加わりました。
幡ヶ谷駅から徒歩7分のところにある図書館で、直接図書館に出入りすることができるので、とっても便利です。ぜひご利用ください。



■ My Library を活用しましょう！

- 「My Library」では、こんなことができます。
- ◎貸出状況・返却期限などの確認 **NEW!** ◎期間延長が可能に！
 - ◎文献取り寄せの依頼（有料。所蔵がない資料のみ）
 - ◎看護学・保健学の英文データベース「CINAHL（シナール）」を学外で検索
- ※ご登録は、図書館へのメール、または直接図書館にお越しください。

📖 図書館だよりは、毎回ちょっと新しいニュースをお伝えするとともに、お薦め図書や耳よりな図書館利用方法などを紹介しします。

📖 引き続き、看護の歴史を川原由佳里先生に紹介していただきます。

📖 新着図書では、本学の先生方が執筆され、最近発刊された「戦争と看護婦」をご紹介します。

📖 第9号は、30周年記念委員会の委員長佐藤眞先生にお薦めの本を紹介していただきました。

広尾館開館スケジュール

10月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24/31	25	26	27	28	29

11月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

12月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

■ 10:00-17:30 ■ 8:50-17:00
■ 8:50-14:00 ■ 閉館
 * 無印は通常開館です 8:50-20:00

「ご意見箱」を設置しました！どなたでもご意見をお寄せください！！

【設置場所】

- ☺ 図書館入口
- ☺ 1階図書館用掲示板



【これまでのご意見と対応の一部】

- [1] 貸出状況を把握したい。WEB上で貸出期間延長したい。
 - My Libraryを紹介しました。
 - ・貸出状況・返却期限などの確認、文献取り寄せ依頼、データベース「CINAHL（シナール）」の学外検索が可能です。
 - ・10月から My Library で貸出期間延長できるようになりました！
- [2] 緩和ケアのブースを設けてほしい。
 - 個別のブースを設けることは難しいですが、緩和ケアについての配架場所を紹介しました。

※皆で、図書館をより良くしていきましょう♪

図書館ビューティークラブ（TBC）メンバー募集

皆さんこんにちは！ TBCは、本好きの学部生や編入生、大学院生による有志の会です。2年半前に結成されて以来、TBCは数多くの企画を実現してきました。たとえば、ガラス張りの窓の近くにソファを置いて「くつろぎスペース」を作ったり、本学の歴代学長の著作を肖像画とともに紹介したり、学生目線で購入図書を選定したり。いわゆる“サークル活動”の1つなのですが、TBCのユニークな点は、教職員が組織する図書館運営委員会とタイアップして活動を行なっているところ。TBCの企画が実現につながりやすいのも、そのためかも・・・本学の図書館は、14万冊もの蔵書をほこる、看護系大学の憧れの図書館といわれています。もっと有効に活用してもらうには、学生が使いたい図書館にするのが一番です！

＊私たちと一緒に活動して下さる学生さんを大募集中です！まずは見学からどうぞ♪
興味のある方は、大塚先生 h-otsuka@redcross.ac.jp まで、ご連絡をお待ちしています！

歴史発見！ 第4回

10月8日は大学30周年の記念式典が開催されますね。その前後に秋号がみなさんに届くのかなと思いながら原稿を書いています。さて引き続き、戦後の本学の様子についてご紹介していきましょう。

戦後、日本を占領下においていたGHQは、国民の健康状態を改善し、一方で女性の権利を高めるため、看護に関しても大胆な改革を試みます。その一つが「保健婦法案」です。高等学校卒の者に3年の課程で看護婦、保健婦、助産婦の3つの資格を取得させ、保健婦（仮）という統一名称を用いるというもので、あまりに革新的なために実現しませんでした。この法案がいかに革新的であったかは、戦前の日本の看護婦養成のほとんどが高等小学校卒者（今の中学校レベル）に2年課程で行なわれていたこと、そのうち高等女学校卒（高校レベルですが現在の女子の大学進学よりも難しかった）に3年課程で行なっていたのが日赤や聖路加だけだったことから分かります。

GHQは保健婦法案を提案した3ヶ月後には、日赤と聖路加による、この法案を下敷きとしたカリキュラムを開始しました。実際、専門学校の4回生は3つの資格を取得しています。しかしこの法案は、人手不足に悩む病院からの反対意見や、急激な教育水準の向上に戸惑う現場の看護職、保健婦や助産婦の実習場の確保問題などから廃案になりました。米国人看護婦たちの国を越えた看護への熱い思いが伝わってくるエピソードですが、70年を経て医療技術が高度化し、学習内容も格段に増えた現在では、3年間で3つの資格取得は無理かもしれませんね。〈図書館運営委員 川原〉

佐藤真先生のお薦めブック



荻原浩（おぎわら・ひろし）の書いた『冷蔵庫を抱きしめて』（新潮社、2015）は、過去1年に読んだたくさんの小説の中でも特に面白いものでした。

「DVを受けている母娘」、「大食いをして吐く新婚の女性」、「自分は二人いるのではないかと考える男性」、「マスク1枚で人の視線から身を守ることに気づいた男性」、など8人をそれぞれ主人公にした短篇小説集です。

DVを受けている母娘のことならば、普通思いつくのは「支援センター」や「シェルター」のことなど支援を受けることについてだと思います。この小説では、彼女は以前から気になっていたボクシングジムへ通い始めるのです。

DVを加える人についてある程度の知識、暴力の周期性やきっかけなど、をある程度持つ読者にとっては、このDV男の描写にはなかなか凄いものがあります。

それでこの話と言うと、別れを切り出した彼女に暴力を振るおうとするこの男は、、、（はい、以下は本を読んでくださいね）。

小説だからと言ってしまえばそれまでですが、なるほど「自力で」という方法もあるのか（あらら、中身をばらしてしまいましたか？）、と思った次第です。収録されている他の話も十分に面白いし、いろいろ考えさせられます。この本は「学生相談室」と「図書館」に寄贈しました。

佐藤 真

新着図書情報

～9月の棚より～
『戦争と看護婦』



「第二次世界大戦において、日本赤十字社が国内外に派遣した救護員のほとんどは、十代から二十代の看護婦でした。彼女らは、男性兵士と同じように召集状を受けとり、海外へ進出した日本軍の根拠地の病院や、病院船で働きました。いのちや暴力の危険にさらされながらの激務についたのです。（中略）著者らは、日本赤十字社に保管されている九六〇にのぼる救護班の活動記録を基に真実の探求を目ざし、加えて元救護看護婦らの実体験による聞き書きを主にした戦争の現実を記しました」

（書籍ちらしより）

戦争はあってはならないものですが、これまでの歴史において戦争があったことは事実です。日本は平和だといわれる時代に生きているからこそ、平和の大切さ、本当の平和の意味について、本書を通して考えてみませんか。

著者は、川嶋みどり先生、川原由佳里先生、山崎裕二先生、吉川龍子さん（元本学図書館司書）です。



イラスト Aya Shiraaki

編集・発行

日本赤十字看護大学 図書館運営委員会